

Title	柳田国男著 石神問答
Sub Title	
Author	田中, 萃一郎
Publisher	三田学会
Publication year	1910
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.4, No.3 (1910. 9) ,p.367(121)- 368(122)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新著紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19100900-0121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

オウド、ハミルトン氏なるが、總選舉前數ヶ月より、倫敦に練習所を設け、非社會主義の辯士を養成し、卒業生を其選舉區に派遣し、盛に遊説をなさしめたり。練習生の數は、九月より十二月に至る迄に、男子四百九十八人女子百〇六人の多數を算じたり。

社會共和黨は一八八一年以來、既に運動を開始し、現今の勞働費に先立ち、選舉運動に参加せるが、一九一〇年には七名の候補者を挙げ、工業地にて競争に加はれるも、全々失敗に終り、一名の當選者をも出す事を得ざりき。

保守勞働黨が、名乗りを上げて、本年の總選舉に、六名の候補者を以て競争に加はりたるは、頗る注目を要する所にして、一九〇九年 補欠選舉に際しバーモンゼイに於て同黨候補者ダムプレイス氏の勝利を得たるを始めとす。此運動は保守共和黨の復活に、多大の刺戟を與へたり、即昨年十一月マンチエスタトに、開催せられたる、全國保守黨及憲政黨聯合大會に於て、此運動を是認し、

倫敦の二新聞は、公衆より六千磅を募集して、六名の候補者の運動費に提供せり、而して三名は、ライセスター、クリセロエ及ウエスト、モンマウスに出馬して、勞働黨を攻撃し、他の三名はデユースベリー、ウエストデンピツヒ及スワンジーにて、自由黨の地域を侵したるも、總數に於て六三二七二九票に對する二七、九五五票の小數にて全く失敗に歸し、エボックメーカーキングとして、世人の注目を受たる、ダムプレイス氏の再選も遂に實現さるゝ事なくして止みぬ。

愈議會の招集せらるゝや、勞働黨は、ジョージバーンス氏を議長に挙げ、法律案の賛否を投票を以て決したるが、主なるものは、勞働組合法改正案、食料品に關する法律の改正案、勞働時間を一週四十八時間に制限する案、鐵道國有案、職業上の争より、家屋を共有する勞働者が退去せしめらるゝを防ぐ案及度量衡に關する案等なり。

自由勞働派は新議會に於て全々自由黨となり、從て其の名稱も亦消え失せたり。而して新議會以前

新著紹介

柳田國男著 石神問答

日本經濟史研究の副産物として公にせられたるこの小冊子は、外装も内容も共に頗ぶる氣が利いて居る。而して著者の所見によればオシヤモジサマ即ちシヤグジは境界鎮守の石神の塞神の神仰に伴ふて傳へられたものであらうと云ふのである。和漢三才圖會飛驒國の條に

明神社 在益田郡松森村
俗云志也具之乃宮 道祖神也

と見え、又駿河新風土記に村の量地の後間竿を埋めて上にシヤグジを祀れりとあるこそ、著者をしてこの結論に達せしめし有力な論據と思はるゝ、之れに付けて思ひ起すのは羅馬のテルミヌス神のことである、テルミヌス神に就てはドモイランの

『續大國民』にも下の如く説いて居る

羅馬の農民は又その耕作地を重んずること甚し

に於て議員の大部分は既に其跡を止めざるに至れり。彼のバーンス氏は自由黨に入り、ブロードハース、ウイルソン及ベルの三氏團體を去り、クレマー氏は死亡、ステッドマン等の五名は總選舉に失敗せり、抑此の團體は一八七四年に起り、一八八五年迄徐々に發展し、一八八六年の議會には最も優勢にして十五或は十六名の議員を有せり。然るに一八八六年の總選舉に於ては、大に其の數を減じ、一八七四年より一九一〇年に至る間に、三名の議員即バートブロードハースト及バーンス氏は自由黨に入り、益小數となれり。然れ共本團體が、一八六七年のローヤルコムミッション以前に於て、萬難を冒して勞働組合を成立せしめ、英國現代の政治工業及社會的生活の基礎を確立したる幾多の功勞ある首領を有したるは、永久に忘る可らざる事實なりとす。(終)

(附記)

右はボリット氏が、コロムビア大學政治學雜誌六月號に一九一〇年に於ける英國勞働黨と題し、起源より筆を起し、今日に至る迄の變遷及幾多の波瀾を詳細に説明したるものを摘譯したるものなり。

く、この不動産に對するや宗教的崇敬の情を以てし注意實に至らざるなし、田園の疆界をも神聖視して、テルミヌス神を設け且之が祭典を行へり一度テルミヌス神即ち疆界標を立つるや又之を移す能はず、ユピテル神曾てカピトリノ岡に殿堂を建立せしめんと欲せしが、テルミヌス神の社地を横領する能はざりきと云へる古傳は即ち之によりて説明ざるを得可し、或は界標を仆し或は之を移さんとするものは何人も皆褻神罪を以て擬せられ、又羅馬の舊法に従へば、田園の耕作に際し鋤犁を以て界標に觸るゝ時は、其農夫は耕牛と共に地獄の神に供養さる可しとあり(八五頁—八六頁)

テルミヌス神と石神とが同一様の事情の下に發達したものと云はれぬ迄も、彼此の間に類似の點は認めらるゝかも知れぬ、なほ著者は西洋の學者の石神の問題に手を著けぬうち先づ研究の一端を公にするとのことであるが、塞の神即ち道祖に關してはアストンの「神道」(一九〇五年出版)の十八六

頁乃至一九八頁に詳細の論究見え、又シカイのドルトルバッククレーは一八九五年に Phallicism in Japan と題する單行本をさへ公にして居る、假令研究の主題は稍や異なるにせよ、何れも本書の讀者の併せて一讀す可きものと思ふ。(田中萃一郎)

三田學會雜誌 第四卷第四號

論 說

商業政策に關する時論

堀 江 歸 一

八月九日より同十二日に至る四日間白耳義國アンウエルス市に開かれたる第二回萬國自由貿易會議に出席し、諸家の講演を聴き、報告を讀み、商業政策の近狀に就て、聊か得たる所あり。之を録して、大方の批判を請はんとす。

1 各國に於ける商業政策の現狀を研究するに當り、第一に着目を要するは保護關稅の巢窟を以て目せらるゝ北米合衆國并獨逸に於て、近時此政策に對する反動を惹起し、曩に制定せられたる稅則に對する非難の聲次第に高きを加ふるの一事な

商業政策に關する時論